５．活力とにぎわいのあるまちづくり

－産業振興－

（1）観光の振興

10 年後のビジョン

市内の資源をつなげた回遊性の高い観光を実現し、南丹市の知名度が上がり、観光が地域の経済を支える産業として充実したまちをめざします。

現状と課題

○南丹市は、広大な自然環境、伝統的なかやぶき集落や文化財、多様な農産物や加工品など、幅広い観光資源を有しており、年間数多くの観光客が訪れ、観光は重要な産業として南丹市の経済を担っています。地域での雇用の確保、定住促進に向けて、豊かな地域資源を生かした質の高い観光サービス、「なんたんブランド」の確立などにより、さらなる集客や滞在時間の延長を図り、いっそうの観光振興を図ることが求められています。

○観光は地域への経済波及効果、さらには定住促進につながるものであり、積極的なＰＲを進めてきましたが、南丹市の知名度はまだ低いのが現状です。

○市内には園部地域の「るり渓温泉」や日吉地域の「スプリングスひよし」などの温泉施設、さら「美山町自然文化村」などの観光拠点が整備されています。こうした既存施設を有効に活用した観光ネットワーク形成や観光消費額の増大を図るための滞在型プログラムの充実を図る必要があります。

観光の状況

	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年
年間観光入込客数（千人）	1,633	1,789	1,717	1,913	2,661
観光消費額（百万円）	2,250	2,344	2,618	2,680	2,938
一人あたり観光消費額（円）	1,378	1,310	1,525	1,401	1,104＊

資料：商工観光課

＊2016 年から算出方法を変更

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
年間観光入込客数	千人	2,661	2,700	2,800
一人あたり観光消費額	円	1,104	2,000	2,500

施策の方向

①　観光ネットワークの確立

○サイクリングやトライアスロン大会、美山ワンデーマーチなどをスポーツ観光の核として、観光地としての南丹市のレベルアップと知名度の向上、新たな観光資源の開発・整備などを図ります。

○地域ＤＭＯ※である、一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会が 2016（平成 28）年に設立され、観光産業のトップリーダーとして観光にかかる各種データなどを継続的に収集・分析し、また、観光に関するマネジメント・マーケティング・プロモーション活動を行い、観光に関する窓口の一元化を図ります。

○参加・体験型観光やアウトドアへの志向、高級志向や日帰り団体観光などさまざまな観光ニーズに対応し、多彩な地域資源を活用した新しい観光スタイルを提案するとともに受入れ体制を整備します。

○観光消費額向上のため、魅力的で付加価値の高い「なんたんブランド」を確立し、滞在時間延長のための体験メニューの充実、その他観光機能の充実を図ります。

②　観光施設および周辺整備

○観光施設や周辺の設備の充実、景観保全、環境美化などの充実を図ります。

○観光施設において、集客力向上のため費用対効果を見据えながら、必要な設備投資を行います。また体験農園や農家民宿・市民農園などの観光施設の充実を図ります。

③　情報発信とＰＲの強化

○京都市内へ訪れる外国人を含む多くの観光客を誘致する取り組みを進めます。

○観光パンフレットやホームページによる観光情報の充実を図ります。

○市民の交流と南丹市のＰＲのため、各種イベントの開催を支援するとともに、イベント運営にいっそうの市民参加を促します。

○中部圏、首都圏や、海外へ観光ＰＲを行い、誘客を図ります。

市民に期待する取り組み

○市の観光資源を知り、多くの人にＰＲしましょう。

○観光施設周辺や散策路の美化活動に協力しましょう。

○観光ガイドや観光ボランティアに参加して、活躍しましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市美山エコツーリズム推進全体構想（2014 年度～）

※ＤＭＯ： Destination Management Organization（デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション）の略称。特に観光庁が提唱する日本版 DMO は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役を担う法人とされる。

（2）エコツーリズムの推進

10 年後のビジョン

南丹市の豊かな自然環境に親しむ人が、南丹市内外を問わず増加するまちをめざします。

現状と課題

◯南丹市では、2014（平成 26）年に南丹市美山エコツーリズム推進全体構想が定められ、2016（平成 28）年には市域の半分以上にあたる地域が「京都丹波高原国定公園」として指定されました。豊かな自然環境の保全と体験型環境学習、地域の環境を生かした持続可能な観光推進が求められており、南丹市ならではの体験・滞在型プログラムの充実が求められています。

◯京都府と京都府中部地域の市町で進めている「森の京都」事業と連携した自然環境の保全や体験型観光の促進なども進められています。

◯環境を生かした産業として、渓流釣客のための観光漁業としての水産業が挙げられます。地域に大きな経済波及効果をもたらしてきましたが、近年はレクリエーションの多様化などから若年層の釣り離れが進み、入漁者が減少しています。また、河川へのごみの投棄や家庭排水の流入による水質の悪化など、河川環境保全の対策も求められています。

◯南丹市は、国内外の都市や人々との交流事業も多彩に推進しており、なかでも豊かな自然環境や受け継がれてきた文化を生かした交流事業を通じて、今後の定住促進につなげる取り組みが求められています。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
年間観光入込客数（再）	千人	2,661	2,700	2,800
一人あたり観光消費額（再）	円	1,104	2,000	2,500
エコツーリズム大会参加者数	人	100	300	400

（再）：再掲

施策の方向

①　エコツーリズムを推進する体制づくり

〇エコツーリズムに対する市民や事業者などの理解と関心の向上を図ります。

〇自然・文化財・生活文化など、南丹市域に存在する有形無形の宝物の発見と保全や価値観の醸成を進めます。

〇インタープリター※（エコツアーガイド）の養成と人材発掘を図ります。

②　エコツーリズムに関するプログラムの充実

〇京阪神都市部に近い立地と農村環境、自然環境を生かし、観光農園や森林での体験学習など、グリーン・ツーリズムを推進します。

〇市内の多様な資源をつないだエコツアープログラムの開発を進めます。

〇観光客に向けてエコツーリズムの意義・価値を積極的に発信していきます。

③　自然環境の保全と観光を持続させる取り組み

〇環境パトロールの強化とボランティア集団の結成を進めます。

〇各漁業協同組合を支援し、淡水魚の優良な稚魚の適期放流と増殖、さらに害魚の駆除、河川環境の保全、ごみの投棄防止などを図ります。

〇豊かな自然環境を生かし、次世代を担う多くの子どもたちを中心とした都市と農村の交流による地域の活性化を図ります。

市民に期待する取り組み

〇エコツアーに参加して、南丹市の豊かな自然に積極的にふれましょう。

具体化する部門別計画

〇南丹市美山エコツーリズム推進全体構想（2014 年度～）

※インタープリター：通訳者・解説者のこと。特にエコツーリズムでは、自然などが持つ意味を伝える人たちのことをいう。

（3）農業の振興

10 年後のビジョン

田園景観が守られ、地産地消も進み、地域の基幹産業として農業が大きな役割を果たしているまちをめざします。

現状と課題

◯農業を基幹産業としてきた南丹市には、美しい田園風景が広がっています。しかし近年は、農業後継者の不足、集落の過疎化や高齢化などから耕作放棄地の増加も懸念され、農地の多面的・公益的な機能を改めて認識し、農地を守る取り組みが求められています。

◯南丹市では、米、畜産、黒豆や小豆、京野菜などの生産が盛んで、特色ある農業として、バイオエコロジーセンターなどによる畜産ふん尿の堆肥化や、それと連携した土づくりなどによる安全・安心な農産物などの生産を進めてきました。

◯ほ場整備については、園部、日吉、美山地域は完了しましたが、八木地域では整備を進めています。また、農道・水路・ため池などの老朽化への対応が必要となっています。

◯販売農家数は、近年減少傾向を示しており、農業者も高齢者の比率が高くなっています。農業者の高齢化や集落の過疎化の傾向は今後も続くことが予想され、今後はより効率的で都市近郊という立地を生かした農業をいっそう振興するため、集落営農や法人化の促進、京のブランド産品など付加価値の高い農産物の生産拡大、観光や交流を視野に入れた体験農業の事業化などが必要となっています。

◯地球温暖化や外来種の増加などにより、ニホンジカ、アライグマなどの有害鳥獣の個体数が増加し、農林水産業に甚大な被害を与えています。南丹市における対策も一定の効果は見られるものの、毎年の甚大な農業被害は後を絶ちません。今後は、環境面の改善も含む総合防除の視点に立った、対応の強化が求められています。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
認定農業者、認定新規就農者数	人	105	120	135
麦・大豆・そば等戦略作物、京野菜等地域振興作物の作付面積	ha	197	210	215
堆肥・液肥の利用量	t/年	11,172	14,000	15,000
有害鳥獣捕獲頭数（シカ・イノシシ）	頭	1,565	2,000	2,000

施策の方向

①　地域の暮らし・環境を支える基盤整備と農地の保全

○農業振興地域などの適切な指定、運用と管理に努め、農業振興のための支援や農業従事者の育成･支援によって、田園や里山、農山村集落の保全を図ります。

○集落営農の組織化や法人化の促進と経営強化、農地の集積などにより効率の良い農業を進めるとともに、適切かつ計画的な農業基盤の整備を進め、耕作放棄地対策を含む総合的な農地の保全を進めます。

○農村景観や地域環境の維持・向上を図るため、地域ぐるみの共同活動を支援します。

②　南丹市の特色を生かした農業の振興

○「京のブランド産品」の優良生産地として、生産量の回復をめざし、生産活動を支援します。

○地域の特産物や安全・安心な農産物への市民の理解を深め、地産地消を進めます。

○認定農業者を支援するとともに、ＵターンやＩターンを含めた新規就農者の育成・支援を推進し、担い手の確保を図ります。

○環境への負荷をできるだけ抑えた持続可能な農業を進め、無農薬や低農薬栽培を推奨し、畜産農家と連携した堆肥の有効利用による土づくりなどにより、安全・安心かつ環境保全を重視した先進的な農産物の生産を支援します。

○６次産業化の多様な仕組みを検証し、農産物の付加価値を高め、農家所得の向上を図ります。

○都市と農村の体験型の交流事業を推進し、農業や市域の農産物への理解を促進するとともに、農家所得の向上につながるよう農家民宿など農家経営の新たな取り組みの拡充を図ります。

○畜産農家の経営安定や環境改善、安全・安心な畜産物の生産を支援します。

③　有害鳥獣などへの対策

○広域連携も含めた有害鳥獣の捕獲事業を実施し、生息個体数を制限するため計画的な捕獲を進めます。

○有効な防除施設の設置の支援とともに、防除や捕獲のための相談・指導を進めます。

市民に期待する取り組み

○集落営農組織や法人化への取り組みに協力し、耕作放棄地をなくしましょう。

○行政と一体となり地域ぐるみでの有害鳥獣被害の防止活動を心がけましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市農業振興地域整備計画（2012 年度～）

○南丹市有害鳥獣被害防止計画（2017～2019 年度）

（4）林業の振興

10 年後のビジョン

地域の環境を支える森林が適切に維持管理され、森林資源を生かした産業も活発になっているまちをめざします。

現状と課題

◯南丹市の森林面積は約 54,300ha と総面積の 88%を占めています。人工林はその約 4 割で、特に日吉・美山地域においては林業が基幹産業として位置づけられ、暮らしの営みのなかで森林が守られてきました。

◯近年は長引く木材価格の低迷で林業経営は厳しく、林業生産が減少し、林業労働者の減少と高齢化などにより労働力が低下し、人工林が適切に管理されない状況となっています。加えて有害鳥獣や病害虫などによる被害も重なり、森林の荒廃が見られます。

◯特産の丹波マツタケも松林の害虫被害などにより生産量が激減しています。

◯生態系の保存、水源のかん養、二酸化炭素の吸収といった森林の持つさまざまな機能への関心も高まっており、今後は森林の計画的な管理保全対策や、森林を守り育てるという意識を市民のみならず来訪者、都市住民へと広げていく必要があります。

◯2016（平成 28）年度から「京都府豊かな森を育てる府民税」が創設されました。その府民税を活用した交付金による森林整備が期待されています。そのようななかで、「南丹市里山再生整備事業」を創設し、独自の施策を講じています。

◯南丹市では、鳥獣被害防止対策として、捕獲と防除の両面から対策を実施しています。しかし、依然として基幹的な産業である農林水産業への有害鳥獣による被害は大きいものがあります。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
人工林間伐面積（単年度面積）	ha	633.8	710	850
有害鳥獣捕獲頭数（シカ・イノシシ）（再）	頭	1,565	2,000	2,000

（再）：再掲

施策の方向

①　地域の暮らし・環境を支える森林の保全とその環境整備

○森林は国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、木材などの林産物供給などの多面的機能を有しています。森林のさまざまな機能が発揮されるよう、適正な管理と無秩序な開発の規制などを行うことによって、豊かな森林の保全を図ります。

○人工林を適切に管理・生育させるために、樹齢ごとの計画的な施業を促進・支援し、適切に整備された森林を未来に継承します。

○森林組合や山林所有者が行う環境整備、保全活動などに必要な支援を進めます。田園や里山、農山村集落の景観保全を図ります。

②　南丹市の環境を支える林業の振興

○新たな林業従事者の確保と育成、労働条件の改善に向けた支援を進めます。また適切な森林整備に向けて、技術指導、普及啓発、林業関係団体への支援を進めます。

○林道・作業道などの路網整備を進めます。

○地元産材の付加価値を高めることと、森林認証や間伐材の利活用を促進させるために、京都府や関係機関と連携したＰＲや利活用の促進を図ります。

○間伐材の利活用や、シイタケ、クリ、マツタケなどの林産物の振興を図ります。

○市内の利用期に達した森林資源を有効に活用し、林業事業体の経営力向上や、林家への利益還元の拡大を図り、地元雇用の創出とあわせて林業の成長産業化をめざします。あわせて、集落、企業、京都府などの公共関係機関などの多様な主体が参画し、原木の供給、加工、流通、消費、バイオマス利用といった森林資源の有効活用を担うとともに、再造林、保育など適切な管理を着実に行い、環境にやさしい資源である木材の循環サイクルを確立し健全な森林を将来に引き継ぎます。

③　有害鳥獣などへの対策

○広域連携も含めた有害鳥獣の捕獲事業を継続して実施し、生息個体数を制限するため計画的な捕獲を進めます。

○関係機関と市民が一体となって、地域ぐるみで森林と集落の間への緩衝帯整備や里山の環境整備を進め、総合的に防除する環境づくりに取り組みます。また、有効な防除施設の設置を支援します。

○森林において、病害虫の防除・駆除を進めます。

○ツキノワグマによる人工林へのクマ剥ぎ防止対策を進めます。

市民に期待する取り組み

○体験学習に参加するなど、森林について学習しましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市森林整備計画（2013～2022 年度）

○南丹市有害鳥獣被害防止計画（2017～2019 年度）

（５）工業の振興

10 年後のビジョン

新たな企業誘致、起業などが進み、市民の就労先が確保されるまちをめざします。

現状と課題

○南丹市には、30 社を超える誘致企業が立地し、正社員・パートあわせて 2,700 人以上が働いており、そのうち市民が約 1,000 人雇用されています。雇用の場の確保や定住促進をめざし、市の財政と地域経済を支える重要な産業として、さらなる企業誘致を図ることが求められます。

○産業の活性化をめざす産業拠点として「京都新光悦村」への企業の立地が進んでいますが、引き続き積極的な企業誘致が求められます。

○工業振興を図り、安定性や収益性の高い事業化への支援を進めるとともに、Ｕ・Ｉターン者などの就業や起業支援に取り組むことが求められます。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
誘致に向けた企業との接触件数	件	3	10	20
市内企業からの年間相談件数	件	100	110	120

施策の方向

①　京都新光悦村の波及効果の拡大

○京都新光悦村において、若い職人の育成や伝統的な素材・技術・意匠の新分野への活用、先端技術との融合による新市場の開拓などをめざす企業などの誘致を推進します。

○京都新光悦村への企業進出による産業の振興、定住人口の増加、雇用の創出、新たな文化の創出、市の知名度の向上などの波及効果がより拡大するよう、市の活性化を担う取り組みとして庁内の連携および商工団体などとの連携を強化し、一体となった取り組みを進めます。

○市内観光資源との連携によって、京都新光悦村を体験型の観光施設として利用することを検討します。

②　工業用地の整備と企業誘致の推進

○雇用の場の確保や定住促進に加えて、市の財政を支える産業の基盤を整備するため、地域の特性を生かした工場用地の整備に努めます。

○市民の雇用促進のため、地元新規雇用にかかる企業への支援に努めます。

○地域産業の活性化に向け、既存企業の育成を図るとともに積極的な企業誘致などによる新たな雇用機会の創出を図ります。

③　中小企業等の支援の推進

○誘致企業や市内中小企業の経営の安定、拡大のため、関係機関と連携し、企業訪問などによる支援を推進します。

○産学官の連携を深め、市内の大学などを卒業した人が工芸などでの起業をしやすいよう、その支援に努めます。

市民に期待する取り組み

○地域に貢献する進出企業や起業家を応援しましょう。

（6）商業の振興

10 年後のビジョン

地域資源を生かした「なんたんブランド」を確立するとともに、地域の日常的な消費生活も便利なまちをめざします。

現状と課題

◯郊外型大型店が増加した近隣市町への消費の流出などによって、近年市内の商品販売額は、大幅に減少しています。これによって身近な地域の商業が失われつつあり、車を持たない子どもや高齢者世帯、学生にとって日常的な消費生活が不便になっています。

◯南丹市の地域の特性を生かして付加価値を付けた、特徴あるものや品質の高いものを製造・販売していくことが求められます。

◯市内には京都伝統工芸大学校があり、その卒業生が地域の協力を得ながら市内に工房を開設しています。

◯ものづくり団地「京都新光悦村」など、ものづくりにかかわる人材の層が厚い南丹市では、新しいものづくりの展開による「なんたんブランド」を発信していくことが期待されます。

◯今後は、市内各地域の特産品と地域資源などを連携させた特色ある南丹市独自のブランドイメージを確立し、消費者の支持・信頼を得られる「なんたんブランド」を提供する仕組みを整えていく必要があります。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
市内における創業件数（年間）	件	4＊	4	4

＊現状値は過去 5 年間の平均値から算出

施策の方向

①　地域の暮らしを支える商業の振興

〇魅力ある商業の集積を促すため、商工会などの民間団体、事業所、まちづくり機関やＮＰＯなどのまちづくり活動との連携を進めます。

〇地域の人材や活力を生かした経済発展を促すため、商工会などが行う創業支援や商工業者への活性化の取り組みを支援します。

〇販売促進や顧客の確保など、地元商工業者による主体的な取り組みを支援します。

〇山間集落や市街地など、それぞれの地域住民の暮らしを支えるために必要な商業の育成、仕組みづくりを推進します。

②　「なんたんブランド」の確立と販路の拡大

〇生産者と商工業者、市民団体などの連携・協力、特色ある地域の相互の連携による一体的な「なんたんブランド」の開発、加工、販路開拓の展開を支援します。

〇南丹市の特産品を「なんたんブランド」として確立するため、市民や全国の消費者、事業者へのＰＲに努めます。また滞在型観光の推進と連携し、「なんたんブランド」の市内での効果的な販売拠点・販売方法を検討します。

③　「なんたんブランド」を支える生産者、産業への支援

〇安全・安心で消費者ニーズに沿った売れる米・野菜・畜産物など、地域資源を生かした特産品の生産を引き続き支援します。

〇南丹市で活動する工芸家などのネットワークを生かし、相互交流と連携によりつくり手を支え、その魅力の発信、製品のブランド化と販路拡大を進める仕組みをつくります。

〇伝統工芸など南丹市の地域資源を生かした産業、工芸品のつくり手や工業製品の生産者を支援し、南丹市の新たな特産品として定着するよう育成に努めます。

市民に期待する取り組み

〇南丹市の特産品を知り、多くの人に広めましょう。

（7）雇用の安定

10 年後のビジョン

雇用の機会が増えるとともに、安心して働ける環境が整ったまちをめざします。

現状と課題

◯南丹市内の誘致企業では、正社員・パートあわせて 2,700 人以上が働いており、そのうち市民は約 1,000 人となっています。企業からは、求人を出しても応募がないという声を聞く一方、市民からは市内に働く場所がないとの声を聞きます。また、南丹市から京都市内などへの通勤者も多い現状があります。企業側の求人と働く側の求職ニーズとのミスマッチが生じており、その解消が求められています。

◯今後の定住促進への条件整備に向けて、住宅需要への対応とともに、Ｕ・Ｊ・Ｉターン※者などを含めた地域雇用を促進し、さらに新たな企業誘致や起業支援に努めていくことで、就労の機会を増やすことが求められます。

◯誰でも安心して仕事ができ、暮らしていける社会に向けて、老若男女、障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して働くことのできる労働環境づくりが求められます。

◯健康寿命の延伸、安心して働き続けるための、労働者の健康管理、メンタルヘルス対策が求められます。企業や工場などの事業者による取り組みとともに、一人ひとりが自らの健康に意識を向けることが必要になっています。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
ものづくり産業への就労支援（年間） （市民雇用者の助成人数）	人	5	10	20

※Ｕ・Ｊ・Ｉターン：人口還流現象の総称。Ｕターンは、地方から都市部に移住した者が出身地に戻ること。Ｊターンは、地方から都市部に移住した者が出身地の近くの地方都市に移り住むこと。Ｉターンは、出身地から別の地方へ移り住むこと。

施策の方向

①　就労支援の充実

○農林業や地元商工業が南丹市の「働く場」としていっそう拡大するよう支援するとともに、積極的な企業誘致活動を行うなど、地元の産業のいっそうの振興を図り、雇用機会の拡大に努めます。

○市内で働きたいというニーズに対応するため、市内の企業やハローワークなどの関係機関と連携し、相談・情報提供体制の充実、斡旋が図れる仕組みづくりを進めます。

○府やハローワークの関係機関と連携し、Ｕ・Ｊ・Ｉターン者の雇用促進に向けた情報提供などに努め、定住を促進するための情報発信を積極的に行います。

○市内の就労者が南丹市に定住できるよう、実態やニーズを把握したうえで、企業や地域とともに長期就労や定住を促すための対策を検討します。

○シルバー人材センターによる高齢者の就労機会の拡充を促し、生涯元気で働けるまちづくりを進めます。

○新規学卒者や障がいのある人の雇用促進に向け、事業者への啓発や支援を行います。

○子育て家庭の就労を支援する保育などのサービスを充実させます。

②　就労環境の充実

○関係機関や事業者などと連携し、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して働くことのできる労働環境づくりに取り組みます。

○女性の就労を促進するため、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みが広がるよう、市民、市内各企業に対する意識啓発を進めます。

③　労働者福祉環境の充実

○労働者の健康増進を図るため、メンタルヘルス対策などの各種カウンセリングの充実や、健診体制、疾病予防対策の充実について、関係機関と連携し、事業者に対して啓発に努めます。

市民に期待する取り組み

○地元での就業も検討し、働く場と定住環境の両面が整った活気あるまちをつくりましょう。

市民ワークショップから出た市民の主な意見・アイデア

まちづくりの基本方針「5．活力とにぎわいのあるまちづくり」に関連した、市民ワークショップで市民から出された主な意見やアイデアを掲載します。

5．活力とにぎわいのあるまちづくり【産業振興】

基本施策	主な意見･アイデア
観光の振興	○市内の地域資源をつなげ、周遊性のある観光プログラムが必要である。 ○体験と学びをミックスさせた魅力的なプログラムを開発する。 ○南丹市では何でもないようなものや体験が、市外では価値に変わる。 ○自転車ロードレーサーのメッカにする。
エコツーリズムの推進	○廃校などを農村体験や宿泊できる施設にする。 ○エコな乗り物を活用した里山観光を実施してはどうか。 ○草刈り機やチェーンソーの使い方、トラクターの運転の仕方など、田舎力養成塾を開講する。 ○アウトドア関連の学校を設立し、スポーツインストラクターを講師にする。
農業の振興	○1 週間ぐらい農林業などを体験できるプログラムを開発する。 ○特産品の野菜を使った加工品の開発を進める。 ○草刈りツアーで起業する。都市部の高齢者に田舎で草刈りをしてもらうことで、農業のマンパワーの確保と健康づくり、生きがいづくりにつなげる。 ○南丹市で独自に、環境に優しい農家の認証制度をつくる。
林業の振興	○林業体験ツアーを地域と行政がタイアップして企画し、募集する。 ○狩猟の魅力を伝えて猟師を育成するハンティング学校を開校する。またジビエ料理の産業化をよりいっそう進める。
工業の振興	○昔ながらの工場見学ができるようにする。 ○ものづくりのまち、アートを大切にするまちになってほしい。
商業の振興	○助け合いのきっかけや商店街の活性化につながるよう、地域通貨を導入する。 ○商店街の活気が出るようなイベントを実施してほしい。 ○園部のまちゼミの取り組みを市全体に広げていく。
雇用の安定	○起業しやすくなるような仕組みを充実する。 ○商店街などの空き店舗を活用した創業・起業を支援する仕組みをつくる。